

第1回運営諮問委員会の開催

トーキョーワンダーサイトでは、事業の適切かつ円滑な運営を期するために、トーキョーワンダーサイト運営諮問委員会を設置し、この5月29日に第1回の委員会を開催しました。

今回の委員会では、事務局より、ワンダーサイト開設以来の事業の成果と課題について説明した後、委員による意見交換が行われました。

意見交換では、ワンダーサイト事業の特色、広報のあり方、事業評価のあり方、などについて意見が交わされました。

ワンダーサイト事業の特色に関しては、多様な事業を実施していることは評価できるが核となる事業がわかりづらい、若手アーティストへの継続的なサポートというキーを明確に打ち出すべき、などの意見がだされました。

広報に関しては、事業が一般に認知されていないのではないか、費用対効果の視点からもっとメディアにアピールすべき、といった意見が出されました。

事業評価に関しては、アーティストの成長を初期の頃から捉えるなど、エピソードの積み重ねから客観指標を生み出せるのではないか、評価結果を積極的に発信すべきである、といった意見が出されました。

トーキョーワンダーサイトでは、今後こうした意見を踏まえて、事業の一層の充実に取り組んでいきます。

平成 19 年度 第 1 回「トーキョーワンダーサイト運営諮問委員会」 議事概要

- 1 日時 平成 19 年 5 月 29 日(火)
- 2 場所 トーキョーワンダーサイト青山
- 3 出席者 岩淵委員、太下委員、井口委員、片山委員、原委員、西松委員、長尾委員、
本田委員、森委員、湯浅委員
館長、副館長、事業課長

4 次第ならびに発言要旨

- (1) 開会
- (2) 館長挨拶
- (3) 委員等紹介
- (4) 座長・副座長選出
座長に岩淵委員、副座長に太下委員を選出。

(5) 議事

資料説明

事務局より、「ワンダーサイトの概要」、「ミッションの成果と今後の取り組み」、「事業における課題」、及び「これまでの事業実績・内容」を説明。

意見交換

トーキョーワンダーサイト事業について、以下のような意見が交わされた。

[TWS 事業全般について]

- ・ 多様な事業を数多く実施している点、また公的機関がこのような役割を担っている点は評価できるが、その反面、核となる活動が外部から判りづらい。
- ・ 「若手アーティストを継続的にサポートしていく」というキーを鮮明に打ち出すこと。また、TWS とはどのような場所か、というものを「分かりやすく」説明することが必要。
- ・ 「美術館ではない」「街の中の拠点」「若い人にチャンスを与えるためのインフォーマルな教育施設」であるという長所を前面に打ち出すことが必要。
- ・ 都民との交流という点では、外部のプログラムへの参加だけでなく、TWS 主催の事業をもっと企画していくべき。街の活力に結びつくためにも、まずこの地域から認知度を広げていくべき。

[広報について]

- ・費用対効果の視点からも、今後メディアにアピール(宣伝)する必要がある。またレジデンスの活動はメディア的な活動として見せることが必要。
- ・一般の人に認知されるよう、企業の広告に近い観点での告知・広告が必要。
- ・ホームページの他、印刷物等 Annual Report の発行も検討すべき。
- ・外部の専門機関と連携して動画配信を行うことなどにより、事業の PR やアートの新しい振興を行うことが可能。

[アーティスト選定・支援の方法について]

- ・どのように良いアーティストを選出し、いい刺激を与えて伸ばすか、ということが今後の課題。必要最小限度のサポートが重要であり、サポートを与えすぎてはならない。
- ・「未来を見据えた方向性を持っている人」と「現代のファッショナブルなものを追い求める人」を見分けることが必要。

[事業評価指標の導入について]

- ・仮想市場法(CVM)等を利用した客観的な事業評価を実施する必要がある。
- ・交流事業・育成事業は数値的に把握しづらいが、コミュニティの変化、アーティストの変化を初期の頃から捉えることが必要。エピソードの積み重ねが、客観指標を生み出す場合もあるので有益。
- ・評価の為の評価とならないよう注意が必要。また、内部効果ではなく、外部効果(社会にどれだけの影響を与えたかという軸)での評価を観ていくべき。
- ・都が自ら文化政策づくりの実験場を兼ね備えているのは大変期待できることであり、同時に評価の実験場でもあってほしい。

5 閉会

以上

19年度トーキョーワンダーサイト運営諮問委員会名簿

平成 19 年 5 月 29 日現在

氏 名	所 属 等
井口 典夫	青山学院大学 社会学連携研究センター(SACRE) 所長・教授
岩淵 潤子	慶應義塾大学 デジタルメディア・コンテンツ 統合研究機構 教授
太下 義之	三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング 主任研究員
片山 正夫	財団法人セゾン文化財団 常務理事
長尾 重武	武蔵野美術大学 教授
西松 典宏	NHKエデュケーショナル エグゼクティブ・プロデューサー
原 俊夫	原美術館 館長
本田 修	独立行政法人国際交流基金 芸術交流部長
森 佳子	森美術館 理事長
湯浅 譲二	作曲家、日本大学芸術学部客員教授

平成 19 年度 トーキョーワンダーサイト事業概要

I	沿革	1
II	施設概要	2
III	設置目的・事業概要	3
IV	事業実績推移	5
V	入場者数推移	5
VI	収支推移	6
VII	平成 18 年度事業実績	7
VIII	平成 19 年度事業計画	11
IX	平成 19 年度事業日程	13

.沿革

平成13年

8月 1日 トーキョーワンダーサイトコミッティ設置
12月25日 トーキョーワンダーサイト開館

平成17年

4月 1日 東京都と財団法人東京都歴史文化財団が共同で事業を
実施する運営形式に移行
5月29日 トーキョーワンダーサイト渋谷アートカフェ「kurage」オープン
7月22日 トーキョーワンダーサイト渋谷オープン

平成18年

4月 1日 事業の運営方式を変更(財団法人東京都歴史文化財団の
自主事業として運営を開始)
6月 3日 短期レジデンス(パイロットプログラム)を開始
11月 7日 トーキョーワンダーサイト青山グランドオープン

・施設の概要

1 トーキョーワンダーサイト本郷

- (所在) 文京区本郷2 - 4 - 6
- (延床面積) 484.72 m²
- (構造) 事務所建、鉄筋コンクリート造、陸屋根3階建
- (建物の沿革) 建築年月日は不明(戦前と思われる)
長く職業訓練校、教育庁庁舎等として使用されていた。
- (財産の帰属) 東京都(普通財産)
- (開設) 平成13年12月25日
- (施設内容) 展示室3室、交流室他

2 トーキョーワンダーサイト渋谷

- (所在) 渋谷区神南1 - 19 - 8
- (延床面積) 361.78 m² (ワンダーサイト部分)
- (構造) 鉄骨鉄筋コンクリート造、陸屋根 地上9階地下1階建
店舗・事務所・共同住宅の複合建物
- (建物の沿革) 昭和46年に、渋谷区勤労福祉会館、都営住宅との合築で
建築。(ワンダーサイトの部分は渋谷労政事務所として使用
されていたものを転用している。)
- (財産の帰属) 東京都(普通財産)
- (開設) 平成17年7月22日
- (施設内容) 展示室4室、カフェ「kurage」他
カフェ「kurage」
ジェリーフィッシュドット(株)に業務委託して運営して
いるアートカフェ(42席)

3 トーキョーワンダーサイト青山

- (所在) 渋谷区神宮前5 - 53 - 67
(コスモス青山 SOUTH 棟3～5階)
- (延床面積) 1,293.20 m² (ワンダーサイト賃借部分)
- (構造) 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造、
地上5階建(1、2階は民間企業が賃借)
- (建物の沿革) 平成7年に国連高等研究所として建設。16年4月に同研究
所が横浜に移転した後を転用。
- (財産の帰属) 中央三井信託銀行(土地信託ビル)
- (開設) 平成18年11月7日
- (施設内容) 宿泊室16室、多目的室5室、談話室、交流室 他

・設置目的・事業の概要

1 設置目的

新進若手芸術家を支援育成していくとともに芸術家同士並びに都民と芸術家との交流の場及びその機会を提供する。

(トーキョーワンダーサイト設置及び管理に関する規程第1条)

2 事業内容

- (1) 国内外の新進若手芸術家の滞在・交流・制作・発表に関すること
- (2) 若手芸術家を中心とした現代芸術文化の振興・交流に関すること
- (3) 現代美術関係資料の収集、整理、展示及び利用に関すること
- (4) (1)から(3)に掲げるもののほか、目的を達成するために必要な事業

(トーキョーワンダーサイト設置及び管理に関する規程第3条)

3 トーキョーワンダーサイト 5つのミッション

- (1) 若手アーティストの発掘・育成、そして東京からの発信をサポートします。
- (2) アジア、そして世界のアートネットワークのハブとしての東京のプラットフォームをつくれます。
- (3) 街の活力である、東京における芸術・文化の多様性をサポートします。
- (4) 東京都の文化政策とリンクしながら戦略構想の提案、施策の試行、リサーチ、実験場として活動します。
- (5) 文化に携わる人材の育成を行います。

4 プログラム

EASP(エマーシング・アーティスト・サポート・プログラム) : 若手アーティスト支援

TEAM(トーキョーワンダーサイト・エマーシングアーティスト・オン・メザン)

展覧会

コンサート

オンサイトラボ

ギャザリング

エクスターナル・ワーク

クレーター・イン・レジデンス

● ビジュアルアートプログラム

● ミュージックプログラム

● 分業連携のプロジェクト

● コラボレーション(伝統と未来 映像と音楽)

● レクチャーシリーズ

● ワークショップ

5 トーキョーワンダーサイトの組織

(1) 事業の運営主体

トーキョーワンダーサイト事業は、平成18年4月より、財団法人 東京都歴史文化財団が、東京都の補助による自主事業として運営している。

(2) 組織体制

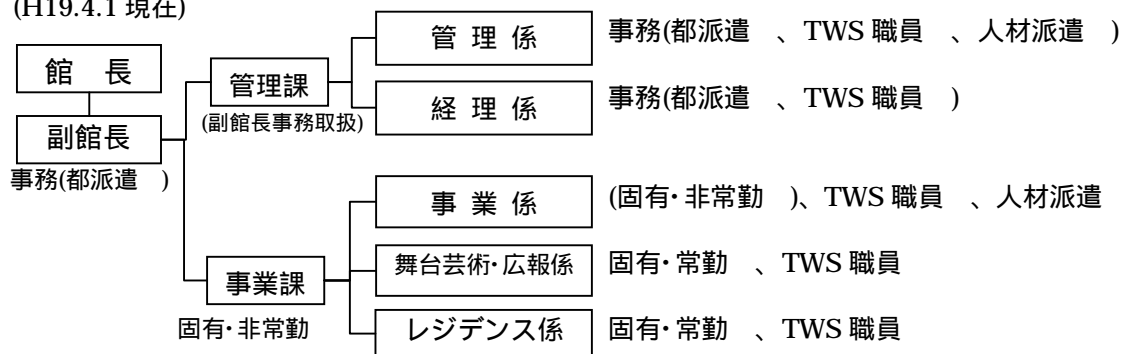
館長

副館長(管理課長兼務)

管理課 (現員7名=管理課長、管理係3、経理係3)

事業課 (現員14名=事業課長、事業係6、舞台芸術・広報係3、レジデンス係4)

(H19.4.1 現在)



丸数字は平成19年4月1日現在の現員を表す。

. 事業実績推移

区分	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度	
	回数	日数	回数	日数	回数	日数	回数	日数	回数	日数	回数	日数
美術プログラム	2	101	34	720	10	312	11	268	17	411	27	504
音楽プログラム			5	5	2	2	7	7	7	12	9	13
教育・交流プログラム等	3	3	17	38	8	20	10	65	16	24	23	39
合計	5	104	56	763	20	334	28	340	40	447	59	556

トーキョーワンダーサイトでの集計値。

平成18年度二国間事業は[派遣]・[受入]合わせて1事業として集計、付随するアカデミーは音楽プログラムとして集計、オープンスタジオは美術プログラムとして集計。

. 入場者数推移

(単位:人)

区分		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
本郷	美術プログラム	57,293	18,096	3,172	1,408	4,434
	音楽プログラム		103	248	165	459
	教育・交流プログラム等	1,938	1,131	792	316	
	小計	59,231	19,330	4,212	1,889	4,893
渋谷	美術プログラム				4,409	17,402
	音楽プログラム				257	496
	教育・交流プログラム等				2,011	416
	小計				6,677	18,314
青山	教育・交流プログラム等					1,811
合計		59,231	19,330	4,212	8,566	25,018
事業種別	美術プログラム	57,293	18,096	3,172	5,817	21,836
	音楽プログラム	0	103	248	422	955
	教育・交流プログラム等	1,938	1,131	792	2,327	2,227

渋谷は平成13年12月開館、青山は平成18年11月開館。

なお、平成14年度、15年度については、自動カウントシステムによる集計のため、実入館者数とは異なることがある。

H14年度音楽プログラムは、教育・交流プログラムとして集計。

収支の推移

(単位:千円)

区 分		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
収入内訳	入場料等収入	-	-	-	2,700	548	800
		-	-	-	2,896	1,864	
	カフェ手数料収入	-	-	-	12,600	9,600	14,400
		-	-	-	17,403	20,721	
都からの収入 (補助金)		10,000	35,498	60,922	94,705	471,522	443,814
		9,984	34,932	60,788	93,053	380,246	
その他収入		450	0	4,032	5,521	2,576	3,100
		4,065	6,818	1,823	4,844	9,727	
収入合計		10,450	35,498	64,954	115,526	484,246	462,114
		14,049	41,750	62,611	118,196	412,558	0
支出内訳	事業主体支出分	10,450	35,498	64,954	115,526	484,246	462,114
		14,049	41,750	62,611	118,196	412,558	
東京都支出分		45,527	10,134	8,746	8,562	3,712	1,575
		33,248	6,909	6,226	2,577	192	
支出合計		55,977	45,632	73,700	124,088	487,958	463,689
		47,297	48,659	68,837	120,773	412,750	0

(上段:予算額 下段:決算額)

その他収入には寄付金収入、協賛金収入、繰入金収入、雑収入等が含まれる。

施設改修等に係る経費は含まない。

18年度決算は、平成19年4月現在の見込金額。

事業主体

- ・～H16 ワンダーサイトコミッティ
- ・H17 東京都と東京都歴史文化財団による共同事業
- ・H18～ 財団法人東京都歴史文化財団

トーキョーワンダーサイト渋谷

事業実績		観覧者数	開催日数		
美術プログラム	鬼頭健吾 + 田幡浩一	3/17 ~ 4/12	603	10	新進気鋭の若手作家、鬼頭健吾、田幡浩一の2人展 企画協力: ギャラリー小柳
	ヘレン ファン ミーネ展 "Tokyo Girls" A Sense of You, Created by Me	3/17 ~ 4/12	437	10	オランダの写真家、ヘレン・ファン・ミーネの6年ぶりとなる日本での展覧会。 企画協力: ギャラリー小柳 後援: オランダ王国大使館 助成: Mondriaan Foundation, Amsterdam
	Move On Asia2006 「衝突とネットワーク」展	4/29 ~ 5/27	383	25	アジア6カ国12のスペースのキュレーターたちが若い映像作家21人を推薦して参加する方式で進行する企画。国際シンポジウムと展示で構成される。TWSの他、国内、アジア各地で巡回展示。 企画: Move on Asia Japan実行委員会 助成: 韓国文化芸術委員会、ソウル文化財団
	西山 仁 「White Out」	4/29 ~ 6/9	1,017	36	西山仁による、発泡スチロールなどの人工的な素材を用いたインスタレーション展。
	Readymade: Map	6/13 ~ 7/2	346	17	名古屋のオルタナティブ・スペースである+ (プラス) ギャラリーとの連携展覧会
	人はなぜ絵画を描くのか Vol.1 「ある青年のドローイングの軌跡」展	6/13 ~ 6/23	268	13	一人の青年が描き続けたドローイングを展示しながら、「ひとはなぜ絵画を描くのか」を問いかける。 企画: アートアセファル、トーキョーワンダーサイト 協力: 西山 仁
	ジャン・シャオガン展	7/4 ~ 7/14	651	11	中国の現代アートシーンを代表するアーティスト、ジャン・シャオガンの展覧会。日本での初めての個展であり、ペインティングに加えてリトグラフ、写真作品を展示。 協力: 東芝エンタテインメント(株)
	ジャナイナ・チェッペ展	7/19 ~ 8/27	1,449	34	ニューヨークを中心に活躍するブラジル系ドイツ人の女性アーティスト、ジャナイナ・チュッペの展覧会。 企画協力: nca nichido contemporary art, Currents-Art and Music
	magical art life展 - あるコレクターの世界	9/9 ~ 10/1	1,135	19	精神科医であり、アートアセファル代表の岡田聡氏のコレクション展示。 企画: トーキョーワンダーサイト、アートアセファル
	エマニュエル・アンティル展	10/7 ~ 11/7	462	27	スイスの写真・映像作家、エマニュエル・アンティルの展覧会。 協力: 株式会社銀座サクラヤ 助成: プロヘルヴェティア文化財団 後援: スイス大使館
渋谷	蜷川実花写真展「永遠の花1」	11/10 ~ 11/26	5,236	15	雑誌、広告、写真展、映画などで活躍している若手写真家、蜷川実花の写真展。 主催: 有限会社ラッキースター、小山登美夫ギャラリー、TWS 企画: 「永遠の花」実行委員会 協力: (株)小学館
	デジタルアートフェスティバル東京2006	12/1 ~ 12/10	1,585	10	NHKの番組「デジタル・スタジアム」と共催の展覧会。若手アーティスト作品を紹介
	Wave Front - オーストラリア 現代アートの最前線 -	12/14 ~ 2/17	1,230	47	2006日豪交流年にちなんでオーストラリアの現代美術を紹介するプロジェクト。 アーティスト: ショーン・グラッドウィル、クレイブ・ウォルシュ、マイケル・ライリー、ティーヴィー・ムーア、ダニエル・クルックス 助成: 国際交流基金 後援: オーストラリア大使館
ワンダーシード2007	2/28 ~ 3/18	1,474	18	若手アーティストによる小品公募展。展示と同時にアーティスト支援のための作品販売を実施。	

トーキョーワンダーサイト渋谷

事業実績		観覧者数	開催日数		
	THE EAST/WESTPROPAGANDA PROJECT- OBEY GIANT VERSUS WK INTERACT	3/22 ~ 4/22	1,126	8	世界的に活躍するストリートアーティスト、OBEY GIANTとWK INTERACTがTWS青山で滞在制作し、作品を展示。主催：トーキョーワンダーサイト、(株)アニエスパーサンライズ アーティスト：OBEY FIANT、WK INTERACT
	小計		17,402	300	
音楽プログラム	田崎悦子コンサートシリーズ プレコンサートサロン 「田崎悦子のやむなき冒険」	9/24	32	1	若手音楽家育成事業の一環として、日本を代表するピアニストで教育者、田崎悦子氏のコンサートを実施。
	文化会館コンサート 「田崎悦子ピアノ大全集 バロックより古典へ」	10/4	208	1	
	Voice 現代日本の作曲家に出会う 第一回目 間宮芳生の音楽	9/30	80	1	日本を代表する現代作曲家を迎え、対談、作品のプレゼンテーション、コンサートを行うシリーズの第1回目。第一回目は、招待作曲家に民俗音楽研究者としても名高い現代作曲家、間宮芳生氏を迎える。 共催：同時代音楽塾、トーキョーワンダーサイト
	山根孝司クラリネット・リサイタル	11/12	80	1	クラリネット奏者、山根孝司氏のリサイタル。山根氏が事前に録音した多重録音音源に生演奏を組み合わせ、クラリネットのみによる多重奏の演奏を行う。録音についてもTWS青山で一般公開を実施。
	Voice 現代日本の作曲家に出会う 第二回目 湯浅譲二の音楽	2/19	96	1	「現代日本の作曲家に出会う」シリーズの第2回目。招待作曲家に湯浅譲二氏を迎える。 共催：同時代音楽塾、トーキョーワンダーサイト
	小計		496	5	
教育・交流プログラム等	ARICA第8回公演 Caravan -黒沢美香vs安藤朋子	4/14 ~ 4/18	313	5	シアター・カンパニーARICAによる、既存のダンス・芝居の枠を越えたパフォーマンスを実施。 主催：ARICA、TWS 制作協力：カンパセーション
	a l'abordage Chasing the Whale「鯨を追って」	6/7,8,9	53	3	Jacob Sejersgaardを中心としたグループによるダンス・パフォーマンスを実施。 主催：A l'abordage 協力：Patravadi Theatre, Green Papaya Art Projects, dots, 法然院、TWS 助成：デンマーク外務省、Gro Pedersen Foundation アーティスト：ルーカス・タナジシュラ、エヴァン・ド・ガン、ヤコブ・サヤーズガード、マムド・サリム、加藤範子 シリン・シー・シャロム"マム"、ドナ・ミランダ、桑折現、
	「人はなぜ絵画を描くのか」トークセッション	6/24	35	1	展覧会「ひとは何故絵画を描くのか」の関連イベントで、トークセッションを開催 パネラー：岡田聡、加藤泉、岩永忠すけ、今村有策
	Flying Steps Break Dance Workshop	7/9	15	1	数々の世界的なコンテストで優勝経験のあるグレイクダンスグループ、Flying Stepsによるダンスのワークショップ アーティスト：Flying Steps 協力：東京ドイツ文化センター、<東京の夏>音楽祭
	小計		416	10	
合計		18,314	315		

3月31日までの実績


・平成19年度トーキョーワンダーサイト事業計画

事業名	内 容	規 模 等	予算額(千円)
トーキョーワンダーサイト (TWS) 本郷			10,000
若手アーティスト支援プログラム・美術 -	平成18年度トーキョーワンダーウォール (TWW) 入選者から選考した若手アーティストの展覧会。	平成19年6月～20年3月。全9回。23名。	4,000
若手アーティスト支援プログラム・美術 -	大学連携プログラム 京都造形芸術大学と連携した、若手アーティストの紹介。	平成19年5月～6月 2,3階スペース	1,000
若手アーティスト支援プログラム・美術 -	公募による展覧会企画 若手のキュレーター育成・サポートプログラム。展覧会企画を公募、選考。	公募：平成19年5月 展覧会：平成19年度中、全4回（前年公募分を含む）	3,000
若手アーティストコレクション展	コレクター所蔵の日本人若手アーティストのコレクションを展示。	展覧会：平成19年6月～9月 1階スペース	1,000
若手音楽家支援プログラム・音楽 -	若手音楽家又は若手企画者の育成・サポートプログラム。公募により選出した若手音楽家が自ら企画。	公募：平成19年5月～6月 コンサート等：平成20年1月	1,000
トーキョーワンダーサイト (TWS) 渋谷			24,500
イースト・ウェスト・プロパガンダ展	ストリート・アートシーンで世界的に活躍するオベイ ジャイアントとダブリューケイ インテラクトの初コラボレーション展。	平成19年4月 全館	800
国際交流事業	TWW、トーキョーワンダーサイト出身で、今後国際的な舞台での活躍が期待されるアーティストの成果などを紹介する展覧会。	平成19年5月～6月 全館	4,300
若手アーティストセレクション	若手アーティストのステップアップを目的としたグループ展。アーティスト支援を目的とした展示作品の販売も行う。	平成19年7月～20年3月 2回 全館	4,600
国内若手支援連携事業	NHKの番組「デジスタ」と共催の展覧会。若手アーティストの作品の紹介。	平成19年12月 全館	1,000
ワンダーシード展	若手アーティストによる小品公募展。展示と同時にアーティスト支援のための作品販売を行う。	公募：平成19年11月～20年1月 展覧会：平成20年3月 全館	4,300
若手音楽家支援プログラム・音楽 -	TWS本郷の若手演奏家支援プログラムの、次のステップのコンサート等を実施。	平成19年9月～20年3月 3回 スペースC	2,500
活動記録誌の発行	トーキョーワンダーサイトのこれまでの5年間の活動記録集を編集・発行。	平成19年8月	5,000
情報コーナー等	情報コーナー（カフェに設置）の企画運営など。	通年	2,000
トーキョーワンダーサイト (TWS) 青山			36,700
レジデンスプログラム	国内外の新進・若手アーティストを招聘して、滞在・制作・交流を行うプログラム。アーティストの選定は、各国レジデンス機関との協力のもと、選考委員会により行う。	第1期：平成19年5～7月 第2期：平成19年9～11月 第3期：平成20年1～3月	18,500
レジデンス成果発表	TWS青山において滞在・制作した作品の発表及びカタログの制作・発行。	平成19年9月～20年1月 3回 TWS渋谷、青山	8,000
国際交流事業	ドイツ文化センター、国際交流基金、トーキョーワンダーサイト共催によるイスラム文化の紹介と対話の企画。	平成19年11月	2,000

事業名	内 容	規 模 等	予算額(千円)
ネットワーク事業	国内外の各地のレジデンス機関と連携し、滞在アーティストの交流、レジデンス事業の普及、啓発を図る。	TWS 青山	1,500
教育普及事業	各国大使館や国際機関と連携し、国内外のアーティスト、キュレーターのトーク及びワークショップを実施。	TWS 青山	1,000
	各国から有識者、アーティスト、キュレーター、社会学者等を招き、東京の文化力、都市の役割等を討議。	通年：断続的に3回開催。	3,700
ライブラリーの整備	レジデンス3階ライブラリーの美術図書、情報資料の収集、機材整備等。		2,000
協働スタジオプログラム			15,000
協働スタジオプログラム	アーティストを招き、内外の若手アーティスト及び学生を公募してワークショップ、共同制作を行う。	平成19年9月 TWS 青山、渋谷	15,000
二国間交流プログラム			8,360
二国間交流プログラム	次の各市（機関）との交流プログラム。 1. ロンドン市 2. パリ市 3. 台北芸術村（台北市） 4. アートスペース(シドニー) 他	平成19年9月 ～20年3月	8,360
調査研究			11,700
広報誌の発行	若手アーティスト支援の情報、レジデンス募集の情報などを掲載した定期刊行誌の発行。	季刊	4,000
国際発信事業調査	日本の現代アート発信の海外展（海外機関、アートフェアなど）の開催、調査。東京における新たな現代芸術のフェスティバルの創出の検討等。	視察年3回程度	3,500
国内外連携先調査	国内外のレジデンス施設への調査。日本人アーティスト受け入れに関する視察、交換の調整を行う。	国内5か所程度 海外3か所程度	1,800
募集・交流	レジデンス国際機関、大使館、各国美術施設等と連携してレジデンス募集、交流イベント等を行う。	登録、募集要項作成配布等	2,400
施設概要等			
<ul style="list-style-type: none"> ・トーキョーワンダーサイト本郷 所在地 文京区本郷二丁目4番16号 主要施設 延床面積 484.73㎡ 休館日 毎週月曜日 年末年始 開館時間 午前11時から午後7時まで（入館は閉館時間の30分前まで） ・トーキョーワンダーサイト渋谷 所在地 渋谷区神南一丁目19番8号 主要施設 延床面積 361.8㎡ 休館日 毎週月曜日 年末年始 開館時間 午前11時から午後7時まで（入館は閉館時間の30分前まで） ・トーキョーワンダーサイト青山 所在地 渋谷区神宮前五丁目53番67号 主要施設 延床面積 1,293.20㎡ 宿泊室 16室、多目的室 5室、交流室、談話室兼ライブラリー 他 			

平成19年度事業日程

	本郷			渋谷				青山
	1Fギャラリー	2Fギャラリー	3Fギャラリー	A	B	C	D	
4月	Video art from London (3/23-4/22)	若手企画公募展 華・非・華 (3/23-4/22)	若手企画公募展 Double Cast (3/23-4/22)	THE EAST/WEST PROPAGANDA PROJECT-OBEY GIANT VERSUS WK INTERACT(3/22-4/22) 出展: OBEY GIANT、WK INTERACT				
5月	〇-コレクションによる空想美術館 第1室 桑原加藤の部屋 - つぎつぎと・なりゆく・いきおいに任せて	INDEX #3 -経験の効用- (5/5-6/3) <TWS x 大学連携プログラム>		東京画 - ささやかなワタシのニチジョウのフーケイ(5/12-6/24) 出展: 近藤恵介、鮫島大輔、須藤由希子、奈良エナミ、日野之彦、原良介、福居伸宏				第1期 (5月-7月) 指名型レジデンス
6月	(5/5-7/1) 6/4-8休館	EASP 長井朋子・佐貫巧 (6/9-7/1)						
7月	〇-コレクションによる空想美術館 第2室 (7/7-9/23)	EASP 池田拓馬・トモエ・中島健 (7/7-7/29)		TEAM07 大野智史 (7/7-8/26)	TEAM08 千葉正也 (7/7-8/26)	TEAM09 塚田守 (7/7-8/26)		
8月	8/1-3休館	EASP 恵木亮太・後藤靖香 (8/4-8/26)						
9月		EASP 清水智裕・長浜憲二 (9/1-9/23)						
10月	EASP 吉岡雅也・笹井信吾・森裕子 (9/29-10/21)			指名型レジデンス 成果発表 JNP ・Jo Byung Chul ・Noh Jacoon ・Park Caban Kyong (9/7-10/21)	指名型レジデンス 成果発表 音楽プログラム マリナ・カボス (9/7-10/21)		第2期 (9月-11月) 二国間交流レジデンス 協働スタジオプログラム (9月-10月)	
11月	EASP 勝正光・石本かや乃 (10/27-11/18)			協働スタジオプログラム (10/27-11/25)	音楽プログラム			
12月	EASP 平林幸壽・小松正朋・目黒礼子 (11/24-12/16)			デジタルアートフェスティバル (12/4-12/14)				
1月	企画公募 (12/22-1/20) On Site Labo: 21世紀を担う若き新鋭たちの響き (1/25-1/27)	EASP こんどうさちほ・タニケニタ・渡邊悠子 (12/22-1/20)		二国間交流レジデンス成果展 (12/22-1/27)				第3期 (1月-3月) 推薦人型レジデンス
2月	レジデンス報告会 (1/29-2/10) EASP うらうらら・工藤春香・高石晃 (2/16-3/9)	ワンダーシード2008 審査 (1/29-2/10)		金氏徹平・鈴木ヒロク・屋代敏弘 (TWS出身アーティスト展覧会) (2/2-3/2)				
3月	企画公募 (3/20-4/20)			ワンダーシード2008 (3/8-3/30)				音楽プログラム

 …長期休館E (12/29-1/3は年末年始につき全館休館)

(平成19年7月更新)

トーキョーワンダーサイト ミッションの成果と今後の取組

ミッション	これまでの成果	今後の取組
<p>(1) 若手アーティストの発掘・育成、そして東京からの発信をサポートします。</p>	<p>若手アーティストのための継続的、段階的な育成プログラムを実施。 ワンダーウォール入賞者 E A S P T E A M (E A S P は14年度、 T E A M は17年度に事業開始)</p> <p>「作品購入」という形で、鑑賞者がアーティスト支援を行える機会を提供。 ・ワンダーシード展(旧0号展)(14年度に事業開始)など ・18年度には作品のネット販売も実施</p> <p>美術制作のみならず、自作品のプレゼンテーションや観客とのコミュニケーションなど、アーティストの活動に必要なノウハウを実践的に学ぶ機会を提供。(E A S P 展などで実施)</p> <p>東京都重点事業として二国間交流、協働スタジオプログラムを実施。国内外の若手アーティストの育成と交流を図る。(18年度事業開始)</p> <p>若手音楽家に対しては、表現者が企画から運営までを一貫して行うことにより、総合的な立場で思考し、実行する経験を積むための企画公募を実施。(オンサイトラボ・16年度事業開始)</p> <p>若手演奏家を対象に、第一線で活躍する演奏家による国際ワークショップ等の教育プログラムを実施。 ・アンサンブル・モデルン・アカデミー(17年度) ・ミュージック・アカデミー (18年度・二国間交流の一環でオーストラリアのアーティストを招へい)</p>	<p>若手アーティストに対する継続的な支援、育成プログラムなど、ワンダーサイト事業の特色を明確化し、対外的にわかりやすくアピールする。</p> <p>絵画販売会社に将来性のある若手アーティストを継続的に紹介するなど、経済面での支援の機会を拡大する。</p> <p>企業や自治体が展示、イベントなどで若手アーティストを使う機会を増やすよう、働きかけと協力をを行う。</p> <p>海外展の開催など、若手アーティストを世界に紹介する機会を検討する。</p> <p>19年度に制定した専門アドバイザー制度を活用、作品制作のみならず展覧会のもち方など、幅広い側面からの若手アーティストへの支援を強化する。</p>
<p>(2) アジア、そして世界のアートネットワークのハブとしての東京のプラットフォームをつくります。</p>	<p>東京都初となるレジデンスを開設、国内外のアーティスト、キュレーター、リサーチャー等を多く受入。 (18年度事業開始。18年度は、オープン前のパイロットプログラムと合わせて、63人のアーティストらが滞在)</p> <p>国際的に活躍するアーティストの展覧会を実施。若手アーティストへの刺激とするとともに、各国との交流を図る。 ・ゲルハルト・リヒター展(15年度)、フロム・スクラッチ(17年度) ・エマニュエル・アンティル展(18年度)</p> <p>アジア各国のオルタナティブ・スペースで活躍するキュレーター推薦のビデオ作品展をアジア各地で巡回展示するムーブ・オン・アジア展を開催。(17年度事業開始)</p>	<p>第一線のアーティストによるプログラムについてはより早期から準備し、事業の効果を高める。</p> <p>国内外のレジデンス機関との連携を強化し、レジデンス滞在者の受入や交流にあたり、より充実したプログラムを組めるようにする。</p> <p>レジデンス施設を有効に活用するため、ワンダーサイト側の経費負担を伴わない事業を含め、東京における様々な文化活動の「滞在の場」として運営する。</p>
<p>(3) 街の活力である、東京における芸術・文化の多様性をサポートします。</p>	<p>屋外における公共の場にアートを展開するストリートハイブアップ事業を、東京都と協力して実施。 ・六本木トンネル(16年度)、代々木公園(17年度) ・駒沢オリンピック公園(17年度)</p> <p>渋谷・恵比寿・原宿周辺地域の文化施設が連携して広報、イベントなどを行う「あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿」事業に参加。(16年度発足)</p> <p>自治体や企業などが実施する公共空間へのアート展示、若手アーティストの公募企画への協力を実施。 ・シンジクアートインフィニティ(19年度)</p> <p>企業、学校、大使館など、デザインに関わる様々な団体がデザインを提案する場である東京デザイナーズウィーク、若手デザイナーの発表の場であるデザインタイムへの参加・支援、リンク事業を展開(15-18年度)</p> <p>東京の文化の持つ多様性を表現する、実験的な取り組みのプログラムを展開。 ・「伝統と未来」(16年度)</p> <p>ジャンルを超えた様々なアーティストが一同に会し、交流・発表・制作を繰り広げるアーティスト・ナイトを開催(15-16年度)</p>	<p>都市の中のパブリックスペースに作品を展示する形式の展覧会の実施を検討する。</p> <p>地域の祭りや行事などに、若手アーティストの作品展示やイベントを行う機会を設けるよう、働きかけや協力をを行う。</p>
<p>(4) 東京都の文化政策とリンクしながら戦略構想の提案、施策の試行、リサーチ、実験場として活動します。</p>	<p>東京の文化政策づくりの実験場として、本格施策に先立つ試験的プログラムを展開するシンクタンクプロジェクトを実施し、文化政策づくりへフィードバック。東京都文化振興指針の策定(18年度)や東京都芸術文化評議会の設立(19年度)に結びつく。 ・イブニングレクチャーシリーズ「アートは新しい東京をつくれるか」(14~16年度)等</p> <p>行政に係わる人も交えて、レジデンス事業や総合的な文化活動戦略について議論する「リレー会議」を開催(18年度)</p>	<p>東京都芸術文化評議会などで取り上げられる新たな事業に先駆的に取り組む。</p>

<p>(5) 文化に携わる人材の育成を行います。</p>	<p>アーティストのみならず、企画者、キュレーターの育成を目指した企画公募展を開催している。(18年度事業開始)</p> <p>音楽の分野でも、若手企画者が自ら総合ワークショップを主催、高名な作曲家を迎えて、若手の作曲家や演奏家とともに、企画運営面でも学ぶ場とした。(Voice「現代日本の作曲家と出会う」18年度)</p> <p>「現場で学ぶ」をキーワードに、レクチャー、ワークショップ等を行う、On Site Laboを開催。</p>	<p>歴史文化財団の一員としての強みを生かし、他の施設とも連携しながら芸術文化に携わる人材育成に寄与する。 (財団パートナーシップ事業への参加、インターン・実習生受入協力、等)</p>
------------------------------	---	--

トーキョーワンダーサイト事業運営における当面の課題

事項	現在までの問題点	これからの取組
(1) 中長期計画の策定	<p>トーキョーワンダーサイトの事業運営に関して、運営組織が確立してこなかった影響もあり、中長期的な視点に立った経営計画（目標）、事業計画が定まっていない。</p>	<p>当面3ヶ年程度の期間を対象に、重点的に取り組む事業、収支目標などを定めた経営計画、事業計画を策定する。</p>
(2) 事業評価の取り組み	<p>トーキョーワンダーサイトでは、開設以来、多様な事業を展開してきているが、これら事業自体が自治体での先駆的事业ゆえに、美術館における展覧会事業などの既存の事業と異なり、成果、効果について検証、評価を行うための指標、手法が定まっていない。</p>	<p>ワンダーサイト事業の成果、効果を対外的にアピールするためにも早急に事業評価指標を検討し、仕組みを立ち上げる必要がある。</p>
(3) 説明責任の履行	<p>これまで、個別の事業を実施するにあたっての広報は実施してきているが、運営組織が確立した今、サイト事業全体の適正性、透明性の観点からの広報が必要となっている。</p> <p>個別の事業以外に、館全体あるいは、事業全体の体系や成果についても、広く外部に対して、わかりやすくアピールする活動にまで至らなかった。</p>	<p>ホームページ上において、サイトの組織・事業や、管理運営上の重要な動きに関する情報開示を行う。</p> <p>ワンダーサイト事業についての広報誌や開館以来の活動記録誌を発行する。</p> <p>ワンダーサイトの事業体系や若手アーティストの育成プログラムについて、対外的にわかりやすい広報を行う。</p>
(4) 財政基盤の強化	<p>トーキョーワンダーサイトでは、カフェの収入や海外の国際機関、財団からの助成を受ける努力を行ってきたが、トーキョーワンダーサイト青山の開設に伴い、事業運営に必要な収入の大部分を都の補助金に依存する状況となっている。</p>	<p>企業の冠プログラムやサポーター制度（協賛制度）など、新たな自己収入の方策を探る。</p> <p>展示室等の空き期間の有効活用を図る。</p> <p>施設運営にあたり委託を拡大するなど、運営コストの縮減を図る。</p> <p>来館者が認知しやすい、鑑賞しやすい環境の整備等、来館者サービスの向上を図る。</p>